

耐震診断の方法

「耐震化優先度調査」に基づいて建物の耐震性を簡易に評価・判断することにより、個々の建物の耐震性能の第1次的状況把握をいたしました。
この「耐震化優先度調査」の評価・判断をもとに、大規模な地震により倒壊または大破する恐れのある危険度の大きいものから優先的に「第2次診断」等を実施しています。

耐震診断の種類

耐震化優先度調査	学校施設の建築年、構造形式、コンクリート強度、耐震壁などから第2次診断実施の優先順位を判断する簡易な判定方法。その結果が1から5までの5段階の優先度ランクに判定され、小さい数字ほど優先度が高くなります。
第2次診断	耐震補強内容を検討し、設計を行うための詳細な診断方法
耐力度調査	老朽化した建物を建て替えるかどうかを判定する方法

建物区分

R	鉄筋コンクリート造 (Reinforced concrete)
S	鉄骨造 (Steel)

I s値、q値

I s値 (Iw値)	第2次診断の結果、建物の粘り強さに形状や経年等を考慮して算出される構造耐震指標で、その最小値を表記しています。値が大きいほど耐震性が高いことを示しています。(Seismic Index of Structure)
q値	第2次診断の結果、算出される建物が水平方向の力に耐えられる力の指標で、その最小値を表記しています。値が大きいほど耐震性が高いことを示しています。

I s値に応じた安全性の目安

0.3未満	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊、または崩壊する危険性が高い。
0.3以上0.6未満	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊、または崩壊する危険性がある。
0.6以上	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊、または崩壊する危険性が低い。

※文部科学省では、I s値が概ね0.7(Iw値は概ね1.1)を超えることとしています。

※大規模な地震とは、震度6強から震度7程度の地震を想定しています。